

感染防止対策委員会の現状と未来

茂 富 良 太

キーワード：感染対策チーム（infection control team、ICT）；感染防止対策加算；感染防止対策マニュアル
（雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 119-120）

委員会の経緯

2013年に誕生した感染管理認定看護師を中心に、感染防止対策委員会の実動にあたる感染対策チーム（infection control team、以下、ICT）を構成し、同年10月より感染防止対策加算（以下、加算）2を申請した。加算1を申請している島根県立中央病院を中心に加算2を申請している出雲徳洲会病院、隠岐広域連合立隠岐病院は連携体制が構築されており、このグループに加入した。加算1と加算2の医療機関は院内感染対策に関する合同カンファレンスを年4回実施することが加算申請の施設基準となっている。合同カンファレンスでは、他施設のICTによるラウンドも行われる。加算申請当初、旧病院で建物の老朽化があった当院は、ハード面でもソフト面でも感染対策には苦労を極めた（図1、図2）。しかし、外部施設から当院の感染対策における問題点を指摘してもらうことは、改善への大きな足掛かりとなった。

現在の活動

ICTの活動としては、週1回の院内ラウンド、感染

防止対策マニュアルの管理、院内研修会の開催、特定菌薬使用に際しての監視（届け出制）、感染対策に関する相談窓口の開設、職業感染防止の取り組み、地域への出前講座などを行っている。こうした活動を続けていることもあり、加算申請前よりも職員の感染対策への意識が高まったと感じられる。

新病院建設に際しては、ICTとして感染対策を推進するうえでの助言を行った。中でも汚物処理室へのベッドパンウォッシャー導入は、尿器や陰部洗浄ボトルの洗浄消毒業務を手行的に行うことでの職員への曝露リスクが大幅に軽減され業務改善へとつながった。また、電子カルテ上に感染管理システムが導入されたことで、データ管理と抽出が容易になり、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業への参加も果たした。

今後の展望

医療の進歩にともない、複雑かつ高度化する感染対策活動をさらに充実させ発展させていくためにも、今後も感染防止対策委員会の担う役割は大きいと思われる。



図1 旧医療廃棄物処理棟（上左、中央）、医療廃棄物（刃物）処理缶（上右）、旧棟のナースステーション加薬・処置台（下左）、汚物処理室（右下）



図2 旧棟ナースステーション処置・加薬台（上左）、旧棟救急外来外汚物用流しと「包交車」（右上）、「包交車」上の薬品（右中）、旧棟ナースステーション資材室（下左）、旧棟汚物処理室シンクタンク（下中央）、使用後包帯入れバケツ（下右）

Present status and future perspective of the committee for infection prevention in Unnan City Hospital.

Ryota Shigetomi

Committee for infection prevention, Department of nursing care, Unnan City Hospital
Correspondence: Ryota Shigetomi, Department of nursing care, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp